

シンポジウム

「学芸員養成と情報技術教育を考える」

日時：2016年7月30日(土)

時間：13時～18時

会場：日本大学芸術学部江古田校舎 東棟(E-207)

主催：日本大学芸術学部共同研究「アート・アーカイヴ構築に向けての研究」グループ

後援：アート・ドキュメンテーション学会

協賛：デジタル情報記録管理協会

開催趣旨

日本大学芸術学部における共同研究「アート・アーカイヴ構築に向けての研究」では、デジタル・アーカイヴの公開に成功し、広く芸術の諸領域からの評価を得て来ました。一方で、芸術学部で開講されている、学芸員課程における「博物館情報・メディア論」では、しばしば、デジタル・アーカイヴの必要性が強調されています。

芸術学部は、写真・映画・放送・デザイン・音楽・舞踊等の諸領域における、多くの技術・表現系専門家と、一方では、美術史・映画理論・文学等の人文系教員を抱える学部であります。従って、同課程の中でも、この「博物館情報・メディア論」は、芸術学部が最も得意とする分野であります。とりわけ、大学院修了者、あるいは、博士号取得者が、各種の芸術系博物館、文化センター等で、大いに活躍が期待できる分野でもあるからです。

今回のシンポジウムは、同学部における経験を前提に関係者の意見集約を行い、一方では、アート・ドキュメンテーション学会(後援)とデジタル情報記録管理協会(協賛)のご支援をいただき、この分野における、外部のご専門家にもご参加いただき、広く意見を伺い、今後の教育のありかたを論じたいと考えています。

13:00

木村三郎(日本大学芸術学部教授)「趣旨説明」

13:10～13:40

木村三郎「大学院博士後期課程を持つ大学が作成するデジタル・アーカイヴのありかたについて・・・日本大学、並びに、同芸術学部におけるデジタル・アーカイヴ研究を振り返って」

13:50～14:20

中川裕美(公益社団法人日本写真家協会 日本写真保存センター調査主任)
「写真原板のアーカイヴ化ー日本写真保存センターの実践から」

14:30～15:00

岡島尚志(東京国立近代美術館フィルムセンター主幹)
「美術館の中の映画ー新たなフィルム・キュレーター/アーカイヴ・スト像を考える」

15:10～15:40

水嶋英治(筑波大学図書館情報メディア系教授)
「デジタル時代における博物館資料目録作成技術ー問題と課題ー」

15:50～16:10 休憩

16:10～16:25

松本純子(文化庁美術学芸課美術品登録調査官)

16:25～16:40

川上央(日本芸術学部大学教授)

16:40～16:55

高橋則英(日本大学芸術学部教授)

16:55～17:10 休憩

17:10～18:00

全体討議

18:00

閉会

平成28年度・日本大学芸術学部共同研究
「アート・アーカイヴ構築に向けての研究」グループ
木村三郎(芸術教養課程教授、研究代表者)
川上 央(音楽学科教授)
植月 恵一郎(芸術教養課程教授)
細谷 誠(デザイン学科准教授)



8つのアート 1つのハート

N_{OU}
Nippon University College of Art
Art

日本大学芸術学部